

研究主題「道徳的価値を理解し、自己の生き方について追究する道徳科の授業 －他者との関わりを通して、自己を見つめる指導の工夫－」

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課

千代田区立九段小学校 主任教諭 春原 裕太

第1 研究のねらい

学校教育法施行規則の一部改正（平成27年3月27日）により、小学校では平成30年4月1日から道徳科が全面実施される。小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年6月）には「児童が将来、様々な問題場面に出会った際に、その状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳的実践を行うためには、道徳的価値の意義及びその大切さの理解が必要になる。」と示され、道徳科の授業における道徳的価値の理解の重要性が明らかにされた。

平成28年12月21日の中央教育審議会答申においても、「道徳的諸価値の理解を深めることが自分自身の生き方について考えることにつながっていくということだけでなく、道徳的問題について自分で考えたり他者と話し合ったりすることを通じて道徳的諸価値の理解が深まっていくこと」と記されている。

児童は、発達の段階や今までの生活経験などに応じて、一人一人がそれぞれ道徳的価値を理解していると考えられる。これからの道徳科の授業では、道徳的価値の理解を他者との関わりの中で更に広げたり、深めたりしていくことが大切である。そのためには、道徳的価値について多面的・多角的に考えることが求められている。児童は、他者との関わりを通して理解を深めた道徳的価値を基にして、将来出会うであろう様々な諸問題について主体的に判断することができるようになる。教師が道徳的価値の理解に重きを置き、他者との関わりが充実した道徳科の授業を継続して行うことで、児童は自分自身の生き方について深く見つけ、よりよく生きようという主体的な姿勢を身に付けることができる。

そこで本研究では、他者との関わりを通して道徳的価値の理解を深めることに着目し、児童が自己の生き方について追究する道徳科の授業の充実を目指す。

第2 研究仮説

道徳的価値の理解を深めるために他者との関わりを充実させる指導方法を工夫し、指導過程に位置付ければ、児童は自己の生き方について追究する力を身に付けることができるだろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) 道徳的価値の理解

道徳科の授業で、最も重要なこととして着目したのは道徳的価値の理解である。道徳的価値の理解とは、「よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるもの」である。具体的には、道徳的価値のよさや素晴らしさを理解すること（価値理解）、道徳的価値の実現の難しさや人間の弱さを理解すること（人間理解）、道徳的価値の感じ方・考え方の多様さを理解すること（他者理解）である。児童は道徳的価値の理解を基に、自己の生き方について考えることで、よりよく生きる基盤となる道徳性を養うことができる。

(2) 自己の生き方について追究する力

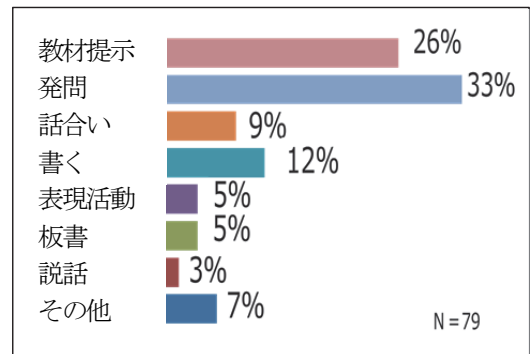
本研究における「自己の生き方について追究する力」とは、「他者との関わりを通して自己をより深く、客観的に見つめ直す力」と定義した。児童の道徳的価値の理解を深める指導過程において、児童が自己の生き方について考えを深めていくことを教師は強く意識して指導することが重要である。その過程で他者と関わり、自己の道徳的価値を多面的・多角的に考える指導方法を取り入れることは、児童が自己の生き方について追究する力を養うことになる。

2 調査研究

平成 29 年 7 月に都内公立小学校 5 校の教師 79 名を対象にして、道徳科の授業で道徳的価値の理解を意識して行っている指導の工夫について調査を実施した。また、都内公立小学校 1 校の児童（第 2・4・6 学年）167 名を対象に、道徳科の授業に対する意識調査を実施した。

教師質問紙の記述から、教師が行っている指導の工夫を分類した（表 1）。授業中の指導方法についての工夫に力を入れている教師が多く、授業前の教材分析や発問構成には、あまり着目していないことが分かった。また、児童質問紙の結果から、児童はおおむね道徳の授業を意欲的に受けていることが分かった。このことから、今までの指導の工夫に加えて、教師が道徳的価値の理解を強く意識した教材分析や発問構成に重点を置いて授業の準備を行うことで、児童が道徳的価値の理解を深め、自己の生き方について追究する授業を行うことができると考える。

表 1 教師が意識して行っている指導の工夫



3 開発研究

(1) 道徳的価値を理解し、自己の生き方について追究する道徳科学習指導案モデル

ア 教材分析表

「児童が自己の生き方について追究する力」を育てるためには、まず、児童の道徳的価値の理解を深める授業を行うことが必要と考える。そのために重要となるのが教材分析である。教材分析を行うことは教材の特性を把握したり、中心発問を設定する場面を考えたりすることに効果的である。本研究では、教材に含まれる道徳的価値に着目した。主となる道徳的価値だけでなく、関連する道徳的価値をできる限り想定する。そうすることで、児童の多面的・多角的な考えを引き出すとともに、授業中の児童の発言や記述の背景にどのような道徳的価値があるのか、教師が適切に判断し、対応することができると考える。さらに教師が事前に教材を詳しく分析することは、教師自身の指導の意図について見直す機会にもなる。教材における多面的・多角的な考えを促し、主たる道徳的価値の理解を確実にを行うために、従来からある「教材分析表」を研究に即して改良した。（図 1）

発問	ストーリー	ポイント	内容項目	関連する内容項目
	パラリンピック女子陸上選手佐藤真海さんの紹介。		D よりよく生きる喜び	A[希望と勇気、努力と強い意志] B[感謝] C[友情、信頼] D[生命の尊さ]
	足の痛みが骨肉腫だと知る。	足を失うことの衝撃や絶望を感じている。		
	入院し弱音を吐く。手術は成功するが、右足のひざから下を失う。			
①	大学生活に戻る。周囲の友人の姿を見て、徐々に友人と会うのを避ける。	周りと自分を比較し、悲観に暮れ、自分の殻に閉じこもる。		

図 1 教材分析表（一部抜粋）

イ 発問構成図

教材分析表を生かして、「発問構成図（図2）」を作成する。児童の実態や教材の特性から教師が考えた発問及びその意図を可視化する。このことにより、教師の意図を明確にし、児童の道徳的価値の理解を深める一貫性のある発問構成を行うことができる。さらに、具体的な指導の工夫や発問に対して児童が想起する道徳的価値を書き出すことで、教師が具体的に授業をイメージし、より充実した道徳科の授業を実践することができる。教材分析表と発問構成図を取り入れ、本研究における「道徳科学習指導案モデル」を構成した。

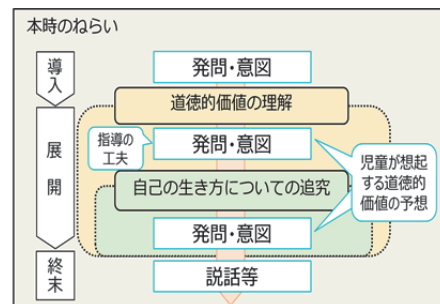


図2 発問構成図（概略）

(2) 他者との関わりを通して、自己を見つめる指導の工夫

ア 他者との関わりを充実させる指導の工夫「ミニ板書」

中心発問では、児童一人一人に考えをもたせてから少人数での話し合いを行う。充実した話し合いとなるように、内容を記録するシートである「ミニ板書」を活用する。授業の中心となる場面で活用することで、児童は他者の多様な感じ方・考え方に触れながら自分の道徳的価値の理解を深めることができる。教師は、児童が自らの道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を捉えることができるように配慮する必要がある。

イ 自己を見つめる指導の工夫「ワークシート」

他者との関わりを通して自己を見つめさせるために、展開の後半において「ワークシート」を活用する。児童には、自分の考えを書いた後、他者との意見交換を行い、その際に感じたことや考えたことを書き込ませる。自分と他者との考えを関連させ、自分自身の道徳的価値について客観的に考えることができるように欄を工夫して作成した。また、児童の自己評価を取り入れることで、本時で学んだことを児童が具体的に分かるようにした。ミニ板書とワークシートを組み合わせ、他者との関わりを通して自己を見つめることを継続して指導していくことは、児童が自己の生き方について追究することにつながると考える。

4 検証授業

(1) 授業の概要

平成29年10月、都内公立小学校の第2・4・6学年で検証授業を実施した。検証結果の詳細分析に関しては、第6学年に着目して行った。「真海のチャレンジ—佐藤真海—」（文部科学省『私たちの道徳 小学校5・6年』）を教材とし、よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解する心情を育てることをねらいとした。

(2) 道徳科学習指導案モデルの有効性について

授業の前に教材分析表と発問構成図を作成したことにより、本時では、児童と教師が表2のようなやり取りを行い、発言の背景にある道徳的価値を表出させることができた。中心発問では、教師が児童の記述や発言を整理する際に、「どういうことかな。」「なぜだろう。」等と問い返し、主となる道徳的価値に関わる考えを引

表2 第6学年検証授業
 (児童と教師のやり取り 中心発問)

児童の反応	教師の対応
中心発問「真海さんは、どんな思いでスピーチしたのだろう。」	
(ミニ板書後)	
C1 スポーツのおかげで、このことに気付いた。	
C1 前向きに生きていきたいと強く考える思い。 (Dよりよく生きる喜び)	T: 何に気付いたのかな。
C2 人生の経験に無駄なものはない。失ったけれど、まだ心の中に残っている。	
C2 チャレンジしようとする心とか、これからも人生を楽しみたいという思い。 (Dよりよく生きる喜び)	T: まだ心の中に残っているものは何だろうか。

き出すようにした。そうすることで、児童は教師の追加の問いに対して自分なりの答えを導き出し、道徳的価値の理解を深めることができた。授業前に、道徳科学習指導案モデルを用いて教師が児童の多面的・多角的な考えを想定したこと、発問の意図を明らかにしたことによる効果が実証された。

(3) 指導の工夫の有効性について

授業前後のアンケートと本時でのミニ板書及びワークシートの記述を分析して児童の変容の様子を見取った(表3)。児童は、授業前と比べ道徳的価値の理解を深め、自己の生き方について考えた記述をしていた。

A児は、ミニ板書を用いた中心発問での話し合いの中で、友達の多様な感じ方・考え方に触れた。そのことにより、諦めずに生きることの素晴らしさを感じ取ることができた。ワークシートや事後アンケートの記述から、他者との関わりでより深まった道徳的価値を自分のこれからの生き方に取り入れようとしていることが分かる。

B児は、事前アンケートで「誠実なこと、親切にすること」と回答していた。本時の学びにより、事後アンケートでは、自分の生き方に対する記述が大幅に増えた。記述を分析すると、教材中の登場人物の生き方から自分の生き方を考えるとともに、ミニ板書やワークシートでの意見交換による

表3 第6学年検証授業(児童の変容の様子)

	事前調査	本時(ミニ板書)	本時(ワークシート)	事後調査
発問	よりよく生きるとはどういうことだと思いますか。	真海さんは、どんな思いでスピーチしたのでしょうか。	真海さんの生き方からどのようなことを考えましたか。	(意見交換後に感じたこと、考えたこと) よりよく生きるとはどういうことだと思いますか。
A児	自分も相手も気持ちが良いこと	足を失っても希望は失っていない。自分の人生が終わったわけではない。自分らしく生きていこう。諦めてはいけない。	私もたとえ失敗しても諦めないで続けたと思う。	相手も自分も気持ちよく、自分らしく生きること
B児	誠実なこと、親切にすること	どんな苦しいことがあっても、諦めずに前向きに行動する。	自分も真海さんを見習って、これからの「物事の壁」を乗り越えていきたいです。	未来を明るく信じることも大事なことです。自分を出し切る、最後まで諦めない、自分らしく生きる、限界を乗り越える、相手のことを考えること

友達との関わりの中で、未来を信じることの大切さについて感じている。B児は、他者との関わりを通じた指導の工夫により、今後の自分の生き方についての希望を具体的に捉えることができた。

第4 研究の成果

道徳科学習指導案モデルを活用して、教師が指導の意図を明確にすることは、道徳科の授業において児童の道徳的価値の理解を深めることに有効であったと考える。その際に、他者との関わりを充実させる指導方法を工夫し、指導過程に位置付けることは、一層、児童の道徳的価値の理解を深め、自己の生き方について追究する力を身に付けることにつながった。

第5 今後の課題

- 本研究においては、道徳科学習指導案モデル及び指導の工夫を提示するにとどまった。今後は、指導の工夫において教師が児童にどのようにアプローチすることがより効果的なのか研究を深めていく必要がある。
- 道徳科学習指導案モデルを多くの教師が効果的・効率的に活用できるよう、実践に基づいて改良を重ね、より汎用性の高いモデルを確立する。